グローバルファンド理事会、次期事務局長にマーク・ダイブル氏を任命

2026 年 10 月 28 日

ジュネーブ― 本日開催された世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）の第 56 回理事会において、理事会は**マーク・ダイブル博士**を次期事務局長に任命しました。同氏は 2027 年初めに就任する予定で、任期は 4 年間です。

医師であるダイブル氏は、2013 年から 2017 年までグローバルファンド事務局長を務めるなど、グローバルヘルスおよび国際開発において豊富な経験を有しています。それ以前には、グローバルファンドと長年にわたり協力関係にある米国大統領エイズ救済緊急計画（PEPFAR）の立ち上げに中心的な役割を果たしました。ダイブル氏はさまざまな役職を歴任し、2006 年から 2009 年には米国グローバル・エイズ調整官として PEPFAR を率いました。

「ダイブル氏は、グローバルヘルスにおける卓越した経験と強い使命感を持ち、成果を上げてきた確かな実績があります」と、**グローバルファンドのレディ・ロスリン・モラウタ理事会議長**は述べました。「同氏は、このパートナーシップが持つ力を深く理解しており、これまでのキャリアを通じて、最も脆弱な立場にあるコミュニティの人々の命を救い、生活を改善するための革新的な方法を模索し続けてきました。グローバルヘルスが大きな変革期を迎える中、私たちが新たな状況に適応し、エイズ、結核、マラリアの終息に向けた取り組みをさらに前進させていく上で、同氏のビジョンと強い決意は、大きな力となるでしょう」

直近では、ダイブル氏は、グローバルヘルス・アーキテクチャーとガバナンスに関するアクラ・リセット・ハイレベルパネル（Accra Reset High-Level Panel）のメンバーを務めています。また、ジョージタウン大学のグローバルヘルス プラクティス・インパクトセンター（Center for Global Health Practice and Impact）を共同設立し、最高戦略責任者を務めています。同センターは、最新のグローバルヘルスにおける科学的知見や技術を政策に生かす実践的な方策を見いだすため、政府、研究者、学術関係者の連携を図っています。ダイブル氏は、ジョージタウン大学の終身在職権を持つ医学教授でもあります。2020 年から 2021 年にかけては、パンデミック対策に関する独立委員会の委員を務めました。

「ダイブル氏は、グローバルヘルスの未来が、各国の主体性の強化、自立性の向上、そして持続可能な保健システムの構築にかかっていることを理解しています」と、**グローバルファンドのビエンス・ガワナス副議長**は述べました。「同氏のリーダーシップのもと、グローバルファンドは、最も脆弱な立場にある人々を取り残すことなく、各国がこの移行に向けた取り組みを加速できるよう支援していきます」

ピーター・サンズ氏は、新たに任命された事務局長が就任するまで、引き続き組織の指揮を執ります。

「多大な努力によって進展を遂げる一方、極めて大きな課題にも直面したこの期間を通じて、組織を率いてきたサンズ氏のリーダーシップに深く感謝しています」と、**モラウタ氏は述べました。**「サンズ氏が引き続き尽力することで、この移行期間においても、グローバルファンドは人々の命を救うという使命の遂行に注力し続けることができます」

2018 年に事務局長に就任して以来、サンズ氏は、前例のないグローバルヘルス上の課題と変革の時期を通じてグローバルファンドを率い、パートナーシップがさらに数百万の命を救い、エイズ、結核、マラリア対策の進展の加速させることに貢献してきました。サンズ氏のリーダーシップの下、グローバルファンドは過去最高水準の資金を動員し、保健・コミュニティシステムに過去最大規模の投資を行うとともに、次世代型のマラリア対策用蚊帳、新たな結核検査法、長時間作用型の HIV 予防手段など、革新的な技術の導入を加速させました。

今回の新事務局長の任命に伴い、レディ・ロスリン・モラウタ氏とビエンス・ガワナス氏は、グローバルファンド理事会の議長および副議長の職を、それぞれエルナ・ソルベルグ氏とハビエル・ウルカデ・ベロック氏に引き継ぎます。両氏は、サンズ氏とダイブル氏とともに 円滑な移行を支え、グローバルファンドが今後も成果を上げ続けるための態勢を整える役割を果たします。

資金を取り巻く状況の変化、科学技術の急速な進歩、国際保健における優先課題の変化を背景に、円滑な移行は、グローバルファンドの今後を見据えた大胆なビジョンを形づくる上で重要な鍵となります。

「次期理事会のリーダーとして、ベロック氏と私は、革新的な取り組みや新たなパートナーシップを積極的に取り入れながら、過去 20 年間の成功を礎にさらなる発展を目指し、ダイブル氏と協力できることを楽しみにしています」と、**次期理事会議長のエルナ・ソルベルグ氏**は述べました。

「私たちは協力して、各国がより持続可能で自立した保健システムを構築し、エイズ、結核、マラリアの終息に向けた取り組みを加速できるよう支援していきます」

今回の発表をもって、世界的なエグゼクティブサーチ会社の協力も得ながら進められてきた、次期事務局長の選考プロセスが完了しました。2026 年 2 月 4 日から、さまざまな地域や分野から多様で高い資質を備えた候補者を募るため、候補者に幅広く働きかける包括的な戦略が実施されました。

--

略歴：マーク・ダイブル教授

マーク・ダイブル博士は、ジョージタウン大学メディカルセンター医学部の教授、グローバルヘルス プラクティス・インパクトセンター（Center for Global Health Practice and Impact）の共同創設者兼最高戦略責任者、およびパーパス・アフリカ（Purpose Africa）の議長を務めています。

ダイブル氏は、医師および組織のリーダーとして、効率的かつ効果的な保健プログラムの構築に豊富な経験を有しています。また、持続可能で、各国が主体となり、地域社会に根ざした保健医療を支える、分野を超えた強固なパートナーシップの構築に尽力しています。臨床医、研究者、教育者、組織の運営者として、25 年以上にわたり HIV および公衆衛生に携わってきたほか、米国大統領エイズ救済緊急計画（PEPFAR）の創設に携わり、その指揮を執りました。また、2013 年から 2017 年まで世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）の事務局長を務めました。

--

-終-

世界エイズ・結核・マラリア対策基金について

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）は、エイズ、結核、マラリアの流行の終息を目指し、すべての人にとって健康で安全、かつ公平な未来を築くための世界的なパートナーシップです。年間 40 億米ドル以上の資金を調達・投資し、最も影響が深刻な 100 カ国以上における、三大感染症との闘い、感染症を助長する不公平の克服、保健システムの強化、パンデミックへの備えに投資しています。世界のリーダー、コミュニティ、市民社会、ヘルスワーカー、

民間セクターと連携して最も効果的な解決策を見出しながら、世界規模で展開しています。2002年の設立以来、グローバルファンドのパートナーシップの支援により 7200 万の命が救われました。

詳細についてはウェブサイトをご覧ください：www.theglobalfund.org
X をフォロー http://twitter.com/globalfund
フェイスブックに参加 http://www.facebook.com/theglobalfund